

# Mint Club



Japan Mint

造幣局

77号  
ミントクラブ

## ミントクラブ第77号の発刊にあたって

皆様には、造幣局製品をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

この度の新型コロナウイルス感染症による影響を受けられました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年引き続き、「桜の通り抜け」の開催を中止することとなり、楽しみにされていた皆様にはご迷惑をおかけいたしました。

造幣博物館やミントショップについても、依然として感染拡大防止のための制限がある中ではございますが、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、可能な限りご来訪いただけるよう運営に努めてまいります。

さて、造幣局は、明治4年（1871年）に創業して以来、今年令和3年に150年を迎えました。明治4年は、通貨制度の統一を図るべく明治政府により「新貨条例」が制定され、我が国の近代通貨制度の歴史が始まった年でもあります。

既にご案内させていただいている「近代通貨制度150周年記念貨幣」をはじめ、その他の150年にちなんだ造幣局製品や博物館の企画展についても企画しておりますので、ご期待いただくとともに、これを機に150年に及ぶ貨幣の歴史に触れていただければと存じます。

造幣局では、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止に取り組みつつ、造幣局が有する製造技術、デザイン力の粋を集め、末永くご愛顧いただける製品づくりを目指してまいりますので、皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ミントクラブは、貨幣及び金属工芸品等の各種情報をお知らせする目的で、季刊でお届けしております。今後とも本誌をご愛読いただきますよう、お願い申し上げます。

令和3年6月  
独立行政法人造幣局

理事長 **山名規雄**

# 造幣局創業150年にまつわる話

## 第1回「1円の歴史」

### 金貨

明治4（1871）年、造幣局創業と同じ年に、<sup>しんかじょうれい</sup>新貨条例が制定されました。江戸から明治に変わった日本で使用する新しい貨幣について定めた法規で、貨幣の単位を「円」にすることや、円未満の単位として「銭」「厘」を設けることなどが定められました。

新貨条例により製造が決まった貨幣は、すべて造幣局で製造されることになりました。その中から今回は「1円の歴史」について紹介します。

明治4年に誕生し、令和3年の現在も流通している1円。しかし、その価値やデザイン、大きさは昔と今では全く違います。150年前、造幣局の創業と共に誕生した1円は、明治から令和までどんな歴史をたどってきたのでしょうか？

明治時代、日本では金本位制が採用されていました。金本位制とは、金を貨幣価値の基準とすることを指し、新貨条例では1円金貨の含有金=1.5gと設定されていました。明治時代に製造された金貨は20円、10円、5円、2円、1円の5種類で、1円が最も小額の金貨でした。

明治4（1871）年から明治6（1873）年までの間に製造された1円金貨の枚数は、1,912,819枚。直径13.51mm、重さ1.67gの小さな貨幣ですが、1.5gの金が含まれており、江戸時代の1両と同等の価値がある高価な貨幣として扱われていました。



明治4年銘1円金貨

### 銀貨

新しく製造することになった貨幣は、金貨・銀貨・銅貨合わせて13種類あり、その中で1円だけが2種類作られることになりました。1つは金貨、もう1つは銀貨です。2種類の1円が必要な理由は、当時の日本と外国との関係にありました。

この頃、国家間の貿易では、支払いに銀貨が使用されていました。造幣局で使用する機械をイギリスから購入した時も、銀貨で代金を支払ったという記録が残っています。主に使用された銀貨は、「メキシコドル」と呼ばれる1ドル銀貨です。スペインがメキシコ産の銀で製造した銀貨で、アジア地域で流通しており、日本ではメキシコ銀、洋銀ともよばれていました。国内で手に入らないものを外国から購入することが多かった日本にとって、支払いに使用する銀貨は必要不可欠なものでした。

造幣局が設立されたことで、日本での銀貨製造が可能になり、1円銀貨は函館、神奈川、新潟、兵庫、長崎の5か所の開港場で使用されました。

1円金貨より大きい1円銀貨は、直径37.58mm、重さは26.96gで、片面に龍、反対面には旭日の図柄が刻まれました。



明治3年銘1円銀貨

新しい貨幣の図柄には、天皇の肖像を用いることが検討されましたが、多くの人の手で触れるものに使用するのは恐れ多いという理由から、天皇を象徴する龍を用いることになったのです。1円金貨は小さすぎて龍の図柄を用いることはできませんでしたが、1円銀貨には龍の図柄が使用されました。

外国との貿易支払い用に製造された1円銀貨は、明治政府が想定していたほど流通することはありませんでした。新興国日本が製造した貨幣に対する信用度が低く、メキシコドルより銀の含有量が低かったこともあり、1円銀貨の使用頻度が増えなかったのです。

こうした状況を改善するため、中央に大きく「一圓」と入れるデザインに変更し、銀の含有量を増やした新しい1円銀貨が作られました。しかし、銀の量が増えたことで、世界各地で鑄潰しの対象になってしまい、流通量はさらに減少していきます。

ところが、明治11（1878）年から1円銀貨が日本全国で使用できるようになったことで製造量が増加し、代わりに1円金貨の製造量が減少。日本国内で流通する1円のほとんどを、銀貨が占めるようになりました。

明治30（1897）年10月1日、金本位制を主軸とした貨幣制度の改革を行うために制定された貨幣法により、1円金貨と1円銀貨の廃止が決定されます。日清戦争後の下関条約で日本に割譲された台湾では、1円銀貨が使用されていたため、造幣局での製造はしばらく続きましたが、大正3（1914）年の1,150万枚を最後に、1円銀貨の製造は終了しました。

## 現行貨

製造が再開されるのは、第二次世界大戦終了後の昭和23（1948）年です。作られたのは橋がデザインされた1円黄銅貨で、4億5,117万枚発行されましたが、材料価格の値上がりにより、発行からわずか2年で製造中止となりました。

しかし、1円貨幣を使用することができない生活は不便であるという理由から、再び製造計画が持ち上がりました。新しい1円貨幣の図案は公募で決められることになり、2,500点を超える応募作の中から2点が選ばれ、それぞれの案を片面ずつ採用して作られたのが、現在も流通しているアルミニウム製の1円貨幣です。

戦後初の公募図案によって作られた新しい1円貨幣は、昭和30（1955）年から流通が始まり、昭和39（1964）年の東京オリンピック開催の年に、製造枚数が大きく増加します。

消費税導入とバブル景気が重なった平成2（1990）年には、製造枚数が過去最高の約28億枚を記録。造幣局史上最大規模の増産となりました。

電子マネーの普及などにより製造量は減少したものの、1円貨幣の製造は現在も続いています。直径20mm、重さ1gの小さな貨幣ですが、150年の歴史を持つ、偉大な貨幣です。



昭和30年銘1円アルミニウム貨幣

※写真はイメージのため、現物とは多少異なります。

# 七宝章牌「越中八尾おわら風の盆」



表面

裏面

※写真はイメージのため、現物とは異なります。

造幣局では、勲章製造に用いる技術を活かして、平成21年から「日本の祭り」をテーマにした七宝章牌を製造・販売しております。

今年は「越中八尾おわら風の盆」を題材にしました。

「越中八尾おわら風の盆」は、約300年の歴史を持つ富山県を代表する伝統的な民謡行事で、毎年9月1日から3日にかけて行われます。

編み笠を目深に被った踊り手達が、唄い手・囃子・三味線・太鼓・胡弓からなる地方(じかた)が唄い奏でるおわら節に合わせて、数千のぼんぼりが立ち並ぶ町内を流し歩きます。

章牌の表面は、昔の面影を残す八尾町の夜の町並みを背景に、男女の踊り手が気品高く優雅に踊り歩く町流しの様子を、八色の七宝による豊かな色彩と熟練した技法で表現しています。

裏面は、おわらに欠かせない役割を担う、唄と楽器を奏でる地方(じかた)をデザインしています。

日本の祭りシリーズ「第12弾」

造幣局では、「日本の祭り」を題材とした七宝章牌を製造・販売しています。

「越中八尾おわら風の盆」は、「天神祭」、「祇園祭」、「仙台七夕まつり」、「青森ねぶた祭」、「神田祭」、「秋田竿燈まつり」、「阿波おどり」、「よきこい祭り」、「エイサーまつり」、「長崎くんち」、「山形花笠まつり」に続いて、12回目となります。

製 品 名	七宝章牌「越中八尾おわら風の盆」
材 質	純銀
直 径 ・ 重 さ	直径:60mm・重さ:約160g
仕 上 ・ そ の 他	七宝・金メッキ仕上げ、漆風赤ツヤ塗装木製ケース入り
販 売 価 格 (消費税・送料込)	160,000円
販 売 予 定 数 量	500個 ※販売予定数量のうち、海外販売用として若干数を控除いたします。 ※お申込みの状況によっては、販売数量を変更する場合があります。
申 込 数	申込数に制限はありません。 ※販売予定数量を超えたときは、抽選とさせていただきます場合があり、 その際は、お一人様5個までとさせていただきます。
申 込 受 付 期 限	令和3年7月19日(月)消印有効
申 込 方 法	同封の申込はがき又は郵便はがき若しくは造幣局オンラインショップ ( <a href="https://www3.mint.go.jp/">https://www3.mint.go.jp/</a> )により、お申し込みください。
申 込 先	(はがき表) 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-79 造幣局 おわら風の盆 係 (はがき裏) ①申込数量 ②郵便番号 ③住所 ④氏名(フリガナ) ⑤電話番号 ⑥お客様コード(9桁の数字、造幣局に登録のある方はご記入ください。)

《通信販売の共通事項》 七宝章牌「越中八尾おわら風の盆」、ICDC 2 0 2 0 メダル共通です。

受 け 付 け た 方 へ の 連 絡	造幣局発行の払込用紙等ご入金のご案内を7月下旬(抽選となった場合は8月上旬)から順次送付いたします。払込用紙の裏面等に記載の注意事項をよくお読みの上、払込期限内にコンビニエンスストア、郵便局(ゆうちょ銀行)又は銀行(銀行振込手数料はお客様のご負担)でご入金願います。30万円を超える場合は、コンビニエンスストアではご入金いただけませんので、郵便局(ゆうちょ銀行)、銀行をご利用ください。なお、造幣局オンラインショップからお申し込みいただいた方は、クレジットカードでもお支払いいただけます。また、製品の発送はご入金・お支払い後となります。抽選となった場合は、受付できなかった方への連絡はいたしませんので、ご了承ください。
製 品 の 発 送	8月上旬(抽選となった場合は8月中旬)から順次発送いたしますが、お申込みの状況によっては、製品のお届けが11月頃となる場合がありますので、ご了承ください。なお、複数の製品を同時に申込み及びご入金・お支払いいただきましても、別々のお届けとなる場合があります。
返 品 に つ い て	製品到着後、速やかに段ボールから取り出しご確認ください。万一、不良品又はお申込みと異なる製品が届いた場合は良品と交換いたします。恐れ入りますが、到着後速やかに造幣局へご連絡の上、ご返送願います(送料造幣局負担)。なお、お客様のご都合による返品やお客様の責に帰すべき不具合には応じることはできませんのでご注意ください。 製品は涼しく湿気の少ない場所で保管してください。なお、年月の経過によりケースの色合い等が変化しますが、交換には応じることはできませんのでご了承ください。
個 人 情 報 の 取 扱 い	お客様の個人情報は、ご入金・お支払いの確認、製品の発送等お申し込みいただいた製品の販売に関する事務に利用するほか、造幣局製品やイベントのご案内、お問合せ・アンケートのために利用する場合があります。お客様のご理解がない限り、その他への利用はいたしません。

# ICDC2020メダル のご案内

COIN DESIGNING INNOVATION  
THE MOST EXCELLENT WORK OF INTERNATIONAL COIN DESIGN COMPETITION 2020

国際コイン・デザイン・コンペティション (ICDC) は、造幣局が、国内のみならず広く海外からデザインを募ることにより貨幣デザインの芸術性の向上に寄与すべく、1998年(平成10年)から開催しております。昨年開催しました「ICDC2020」では、中田 晋一氏(日本)の「危機の終息から希望の未来へ」が最優秀賞に選ばれました。

造幣局では、優秀な貨幣デザインを広く世界に紹介するとともに、貨幣デザイン・貨幣製造技術のさらなる向上につなげていくことを目的に、この ICDC において選ばれた優秀な貨幣デザインを平成14年から「ICDCメダル」として製品化しております。

今回も、「ICDC2020」において最優秀賞に選ばれた貨幣デザインを基に製造した、「ICDC2020メダル」を販売することとしましたので、ご案内申し上げます。

## 金メダル



## 銀メダル



※写真はイメージのため、現物とは異なります。

製品名	ICDC2020メダル(金メダル)	ICDC2020メダル(銀メダル)
材質	純金 (造幣局品位証明刻印入り(「999」をメダル側面に打刻))	純銀
直径・重さ	直径:30mm・重さ:約25g	直径:30mm・重さ:約13.5g
その他	化粧ケース入り	特製紙ケース入り
販売価格 (消費税・送料込)	234,000円	4,000円
販売予定数量	1,100個 ※販売予定数量のうち、海外販売用として若干数を控除いたします。 ※お申込みの状況によっては、販売数量を変更する場合があります。	5,000個
申込数	申込数に制限はありません。 ※販売予定数量を超えたときは、抽選とさせていただきます。その際は、お一人様5個までとさせていただきます。	
申込受付期限	令和3年7月19日(月)消印有効	
申込方法	同封の申込はがき又は郵便はがき若しくは造幣局オンラインショップ ( <a href="https://www3.mint.go.jp/">https://www3.mint.go.jp/</a> )により、お申し込みください。	
申込先	(はがき表) 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-79 造幣局 ICDCメダル 係 (はがき裏) ①メダルの種類(金・銀)及び申込数量 ②郵便番号 ③住所 ④氏名(フリガナ) ⑤電話番号 ⑥お客様コード(9桁の数字、造幣局に登録のある方はご記入ください。)	

※7ページの「通信販売の共通事項」もご覧ください。

造幣局では、最新の情報をメールマガジンで配信しています。  
ご登録は、右記のホームページまでお願いします。

※表紙・裏表紙に掲載している写真はイメージのため、現物とは異なります。  
※裏表紙には、今年発行予定の近代通貨制度150周年記念貨幣を掲載しています。

発行所 独立行政法人 造幣局  
〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号  
造幣局ホームページ(URL) <https://www.mint.go.jp/>  
お問合せ先 造幣局お客様サービスセンター  
TEL 0570-01-2626(ナビダイヤル)  
ナビダイヤルをご利用できない場合06-6351-2626  
(平日午前9時～午後5時)

令和3年6月28日発行(第77号)